

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401608		
法人名	有限会社 八神		
事業所名	グループホーム「あまぎり」		
所在地	長崎県南島原市深江町丙357番地		
自己評価作成日	令和 1年 8月 25日	評価結果市町村受理日	令和2年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和元年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「毎日が笑顔」をモットーとし、季節の食材を美味しく食べる。家族の面会時間を制限せず、夜間寝顔を見に来られる家族や昼食夕食の介助に毎日来て下さる家族がいらっやいます。残された人生に家族が関われる時間を支援していきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは平成15年に開設し、代表の「入居者の残りの人生を家族とともに楽しく笑顔で過ごして欲しい」という想いから「毎日が笑顔」を理念として掲げ、全職員の共通理解を深めながら日々入居者への支援に取り組んでいる。日中、入居者はホーム共用空間の中央ホールで自分の過ごしたい場所にあるソファで寛いだり、テレビを観たり思いおもいに過ごせるほか、昼食や夕食時、仕事帰りなどに家族が立ち寄ることができるなど家族の訪問について制限を設けず、職員も快く受け入れている。近隣神社の祭りの際にはお神輿の来訪があるほか、日頃より近隣の方がお茶菓子を持参し入居者や職員との会話のためにホームへ訪れるなど地域との交流もあり、地域の僧侶によるギター演奏やコーラスコンサートなど地域に開かれた運営を行っている。また、共用スペースに季節行事の写真を飾ることで入居者やホームを訪れる方がいつでも写真を眺めて楽しめる環境を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム「あまぎり」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「毎日が笑顔」を理念とし利用者、利用者の家族、はもちろん職員、や近隣の方も笑顔になれるよう心がけています	ホームでは理念をもとにした「笑顔で美味しく、美味しいものをいただきます」「職員自身が楽しくなければ、入居者も楽しくない」を毎朝のミーティングで唱和し、共有を図っている。職員はこれらをもとに日々の入居者支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方がお茶のみに来られたり小学生の子供さんが挨拶して下さいます	近隣神社の祭りの際にはお神輿の来訪があるほか、日頃より近隣の方がお茶菓子を持参し入居者や職員との会話のためにホームへ訪れるなど、地域との交流を通して地域に開かれたホームとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生のインターンシップ、中学生の「福祉体験学習の受け入れをしました		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	令和1年10月からの介護保険料改定、増税、について料金設定の話し合いをしました	運営推進会議には家族代表・市議会議員・地域包括支援センター職員の参加があり、会議ではホームの状況を参加者に伝え要望や助言を得ている。会議での意見交換を経て市の広報誌がホームに届くようになり、入居者やホームが地域情報に触れる機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保護課の方と連絡、書類提出を行う(今年度新たに生活保護受給者となられた方1名)介護保険課の方にケアプランのことで相談、アドバイスしていただきました	管理者は生活保護対象の方について市担当者と連絡・調整を行っている。また、島原地域広域市町村圏組合介護保険課職員とは介護保険証更新申請の手続きなどを通じて連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束0宣言してます	ホームでは身体拘束0(ゼロ)宣言を行っており、入居者の居室にはセンサーを設置せず、職員の見守りにて対応している。日中は玄関を施錠せず、ホーム周囲の様子が分かるようモニターを導入しスマートフォンで確認できるようにしており、身体拘束のない安全・安楽な生活に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護拒否や暴力行為がある場合職員交代や時間を空け声掛けをする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援なし		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今回10月からの介護保険料、利用料の料金改定に伴い同意書が必要になりますのでその旨家族へ説明し署名捺印していただきました		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1日2食、食事介助に来て下さる家族が2家族、夕がた仕事帰りに来所される家族が2名おられます その時要望を聞いたり相談に耳を傾けています 岡山にいらっしゃる娘様にLINEで近況報告をしています	職員は昼食や夕食時、仕事帰りなど、家族がホームへ立ち寄った際などに対話するよう心掛けており、そこで得た意見や要望を入居者支援に反映するよう努めている。遠方の家族には手紙やSNSで意見を伺い、入居者への対応に活かすよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝ミーティングをして情報共有 その中に家族の要望や本人の思いを取り入れ支援、介護方法を統一しています	管理者は毎朝のミーティングや夕方の申し送りのほか、業務中などあらゆる場面で職員からの入居者支援やホーム運営に関する提案があれば、早急に改善に向けた対応を行うよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時休みの希望を記入してもらいます 労務士の方と色々相談して給料水準を設定しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県南保健所で開催の口腔ケア研修 県GH協会主催のケアマネ研修 半島GH協会 虐待、拘束の研修に参加 ケアマネ更新研修参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	空床状況の共有や介護報酬改定に伴う相談など		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、家族との話し合いサービス提供をする		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に思われることや要望があることに対し少しでも家族の思いにこたえられるように支援 そのため夜間訪問やお泊りもしていただいています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護職、ケアマネ、看護師を交え家族と話し合いをします		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事は声掛け、出来ない部分を手助けしていきます		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、職員は見守り家族の方で出来る介助はしていただき残された時間を過ごして頂く		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊、外出の手助けをしている	職員は月1回家族の自宅へ外出する入居者について、家族による送迎や外出の支度・準備など家族と連携しながら支援に取り組んでおり、入居者が慣れ親しんだ馴染みの人や場所との関係が継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファアでの会話や食卓での会話を楽しんだり徘徊される方に声をかけてくださいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前利用されたご家族から紹介された方が入所につながってます		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中で利用者の思いを知り支援する	職員は入居者や家族と対話する中で食べたい物や過ごし方の希望など入居者の思いを聴き取り、日々の生活の中で実践し、実現できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から情報を提供していただいたり、入所前のケアマネ、社協、包括の方に問い合わせる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の会話や身体状況、夜間(眠りの状態)排便、日尿の確認で把握		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	検討会を開き本人、ご家族の希望を聞きながら個人記録や職員の意見を基に作成	ケアプランは入居者本人や家族の意向、職員の提案などをもとにケアマネジャーが作成しており、本人本位の内容となるよう留意している。職員はプラン内容をもとに支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、ケアプランチェック表、看護記録を活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望、本人の特変時には素早く対応		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	知り合いの漁師さんから魚を頂いたり、野菜、イチゴ、メロンを畑まで貰いに行ったりしてます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族へ受診前後の報告を行う 又ご家族からの相談、希望を主治医に伝え、アドバイスを頂き、ご家族に伝える	ホームでは入居者・家族が希望する病院を受診することができ、通院は家族対応を基本としている。家族による送迎や付き添いが困難である場合は職員が対応しており、受診結果を家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年2月より看護師在任となり、週3日勤務されています 入退院の連携、受診同行、ご家族への報告されています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供、介護サマリー、問題行動を細かく書いて病院に提出します 退院時には病院からサマリーを頂き不安に思える点は電話にて質問をして支援に繋げる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針、同意書、看取りをするための書類は整えてあります 支援なし	ホームは看取りを行う体制を整えており、「看取りに関する方針」をあらかじめ入居者本人・家族へ説明し同意を得るほか、看取り期には「終末期生活支援に関する覚書」を本人・家族と交わしている。また、各種情報を共有できるようケアカンファレンスを開催し、看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルに沿って動ける様になっています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練の実施 地震、洪水の際は当ホームが避難場所になる可能性もある 備蓄品、発電機等の備えあり	年2回の避難訓練は消防署立ち会い及び自主訓練を行っており、災害時の避難誘導などについて近隣住民及び事業所へ協力を要請し、了承を得ている。訓練では新入職員を優先的に参加できるよう配慮するとともに、その他の職員についてもいずれかの訓練に参加できるよう努めている。	災害時の備蓄品について準備しているものの、物品や食料などの一覧がなかったため、消費・賞味期限及び個数を管理しておくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合わせた言葉がけをする中で方言を使ったり敬語で話したりしています	職員は入居者一人ひとりの好みに合わせ、敬語や方言を用いた言葉掛けを行っており、くだけ過ぎた言葉遣いにならないよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を言葉で言ってもらえるよう促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の思いに寄り添いゆっくり行きたいところへ行けるようにしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服を着ていただくよう支援		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化して職員のための準備となっています	職員は季節の野菜などの話題の中で入居者から「芋ご飯が食べたい」と希望があれば、食事に取り入れ食事を楽しむことができるよう対応している。その他にも肉や魚など主菜が偏らないよう交互に提供するとともに、入居者の食の好みや形状を把握しながら食事の提供を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材を利用し美味しく食べてもらう現在とろみ食のかたがいらっしゃいますが一つの料理をミキサーにかけて提供乳製品の苦手な方は代替え食を用意しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、夜間義歯洗浄剤にて消毒訪問歯科の方が順番で口腔ケアをしてくださっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを利用し一人ひとりの排泄パターンを把握 介護度(5)の方もトイレ誘導しています	ホームでは入居者一人ひとりの排泄パターンが把握できるよう「24時間シート」を取り入れている。職員はシートの情報をもとに入居者の排泄パターンを把握し、日中はトイレ誘導、夜間はトイレでの排泄介助に加え、尿取りパット・オムツにて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確認、牛乳、電解質補水ゼリー、乳酸菌の入った水を飲用していただいています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴と汚染時の入浴、病院受診前入浴 一人ひとり入浴温度が違うのでその人に適した入浴をしていただいています	ホームでは月・水・金の週3回の入浴を基本としているが、入居者の体調に合わせた入浴日の変更や失禁した際の保清にて入浴するなど、状況に応じていつでも入浴することが可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	最近夜間帯も暑いのでクーラーをつけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	精神薬を服用している方は主治医に状況報告し病状安定しているときは薬を変更したり中止して頂いたりし確実に服薬していただいています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	相撲を楽しみにされテレビ観戦されたり、訪問コンサートに参加されています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場の外出はできない 自宅へ外出や宴会場へ外出される方の送迎介助	職員は入居者とともに季節の花や紅葉を見にドライブに出掛けるなど、気分転換を図っている。家族との外出の際には一緒に準備したり送迎の介助を行ったりするなど支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いたいものを伝えられるが職員に買って来てと言われる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	娘さんに電話で話されるも会話成立せず、後でビデオレターを送ったりします		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を洗面所前、玄関入り口に置いてあります	ホーム共用空間であるホールでは大型テレビでの歌番組の視聴やソファで寛ぐ方など入居者が思いおもいに過ごす姿が窺える。また、季節の花や熱帯魚のほか、ホーム玄関にはメダカや金魚を飼育し、入居者だけでなくホームを訪れる方の癒しに繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いにソファに座られています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁にひ孫の写真や誕生日、母の日にいただいた花などを飾っておられます 又仏壇をタンスの上に置いて毎日手を合わせておられます	居室には入居者が使い慣れた筆筒やベッドなどが持ち込まれ、写真を飾ったり仏壇に手を合わせたりする姿が窺えるなど入居者が居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケアプランに併せ必要な補助具、ポータブルトイレ、エアマット、畳、ツースリーパー(低反発マット)の使用		